ワシントンホテルの設備への考え方

建築設備は、その設計時に於いては機器類の容量（大きさ）、材料の仕様（材質等）に主として着目し、予算金額を考慮しながら、室内環境側や機器側に要求されるある一点（ある条件）にのみ最も適合するように行われます。また、現場施工時に於いては、その仕様や員数に間違いの無いことが重要なこととして遂行され、その施工精度の良否から来るシステムへの影響についてはあまり注意されていません。

しかるに竣工後は、建築設備は特にそのシステムとしての有機性が重要となり、竣工検査時にチェックされた観点では十分なものとは言えません。

室内要求は一点ではなく、絶えず変化変動するものであり、それに応じて運転される設備システムへの影響も、使用頻度、運転時間、設置年数に関する事はもとより、時々の保守作業に大きく左右されます。

結果としてシステムの機能のばらつきを生じエネルギーの損失、寿命の低下の原因となります。

建築設備にも、人間のからだが日常の手入れや定期診断により病気を未然に防いで寿命を長くすることができるのと同じようなことが考えられます。新薬や新しい治療法も技術の進歩として取り入れていかねばならないでしょう。そこには人間の力と機械との調和が実現できます。

以上のことから、既存のホテルの建築設備の運転状況、実情を調査し、その運転方法、機能診断、故障データ、保守データにより、省エネルギーを図りつつ寿命を伸ばし、保守の合理化をおこない、設備の故障を事前に見つけ対処できるようにし、防災上も安全で衛生上も健康な建物となるように努めれば、新しい顧客のニーズにも対応できる経済性の高い設備を保持することが可能となります。

稲山副社長とともに　パリバジェットホテル視察